

心ほぐしが必要な仲間

ある研修会に呼ばれて行った。「体育に体ほぐしがあるように、特別活動には心ほぐしが必要です。」と言われ、なるほど最近では、ほぐしが大切なんだと思っていたら、じゃんけんをして、負けた方が自己紹介をするというゲームが始まった。また、7～8人が円形になり、両方の人差し指を胸のあたりに差出した所にフラフープがのっかった。みんなでこのフラフープを床に下ろすのが、次のゲームだった。どれも、急な必然性がともなった課題を仲間でクリアーしていく手法である。場が急に賑やかになり、あちこちから笑い声が聞こえ、笑顔が見えてきた。

次のグループも違うゲームを紹介され、集会活動に便利だと力説されていた。学級開きにも使えるらしい。確かに場は和む。多くの学級に、このゲームを取り入れた人間関係づくりの実践が、報告されている。これらのゲームで、好ましい人間関係づくり一助にはなっても、本当に人間関係が円滑になるのだろうか、どうしても懐疑的になる。ゲームで望ましい関係が築くことができれば、これほど楽なことはない。どこかの職員室で使ってはと、思いたくなる。

学びの中で他児意識を育てる

現代の大人の世界も子どもの世界も、複雑な関係で絡んでいる。これらのゲームや人間関係づくりのプログラムで、^{もつ}縛れた関係を緩めることはできても、そんなに簡単に解きほぐすことはできない。

眼前の子どもを丁寧に見てみよう。遊んでいる子どもたちを観察してみよう。自分の気分で他児とかかわったり、他児を自分の遊びの助手のようにしたりしていないだろうか。子どもと親、大人の間の上下関係の中では甘えもあるが、仲間との関係は、平等が基本で甘えが許されない厳しさがある。他児を仲間として受け入れ、仲間の存在自体を認める段階を重視し、できるだけ早く対等な関係を築くことが必要である。そのためには、多少のトラブルはあっても、本物体験を充実させ、本音と納得の世界をたっぷり体得させたい。子どもたちが自らの体験を通じて、他児を理解しようとする場を増やすことが大切である。



対等の関係で仲間と遊ぶ